

原町小 研究だより

原町小学校は、どんな研究をしているの？

今年度、本校では「自ら考え、選択し、決定できる児童の育成」を研究主題に掲げ、教育活動を進めています。中心となるのは「自己調整力」、すなわち自分の学びを自分でコントロールする力です。変化の激しい社会の中で、自ら判断し行動できる力の育成を目指しています。その具体的な取り組みとして、以前より授業時間を45分から40分に短縮することです。生み出した時間を「裁量の時間」と



し、教員の授業改善と子どもたちの主体的な学びの充実に活用しています。高学年では週あたり145分を生み出し、探究的な活動を可能にしています。代表的な活動が「マイスタタイム」です。自分の興味や必要に応じて学びを選択し、主体的に取り組む力を育てています。さらに、起業家教育や体力向上の取組も進めています。子どもたち自身の試行錯誤の過程を大切にしながら、「自分で決める力」を育てていきます。ご家庭でも温かい見守りをお願いします。

先生たちも学習しているの？

4月24日(水)校内の研究会に、指導教諭 佐藤亮治先生を講師に招き、特別活動に関する研究会を行いました。講話では、特別活動(学級活動)が人格の形成や社会性の育成に直結する重要な学びであることが示されました。中でも、「自分で考え、自分で決める経験」が重視され、学級会で「何をするか」「どうするか」「誰がするか」を話し合い、合意形成する過程が大切であると



されました。また、日本の子どもは自己肯定感が低い傾向があり、その向上には「自分が役に立った」と感じる自己有用感が重要です。課題発見から振り返りまでの過程を繰り返すことで、これらの力がはぐくまれます。そのためには、失敗しても認められる支持的な学級風土が欠かせません。学校では見守りと助言を通して子どもの成長を支えています。ご家庭でも、子どもが自分で決めたことやその過程を認め、次につながる声掛けをお願いします。